

権利は全ての人にとって平等に

福祉国家と呼ばれるフィンランド、スウェーデン、デンマークの障害者福祉に関する制度が、写真と、平易な文章で紹介されている。

例えばデンマーク。93年当時の、24人の重い知的障害を持った人が暮らしていた居住施設は個室4部屋で

1グループとし、共用のリビングとキッチンからなっていた。それが04年には、同施設は移転・新築され、新しくできたグループホームは、1人あたり2部屋に台所・トイレ・シャワーがあり、65m²が権利として保障されていた。「度肝を抜かれる快適な住環境とスタッフの支援体制」と筆者は評価する。そして、この国で「施設」という言葉を使わなくなつた

のは、「家」が障害のある人にも保障され、障害があるゆえに様々な配慮が必要であることを誰もが「当然」と思うようになり、そのため施設のような居住空間も、同じ「家」と認識されるようになったからではなかいか、と分析する。

当事者・関係者へのインタビューも多く、その言葉から、これらの国々に根付く、「障害を持つ人々も同年齢の市民と同じ権利を有し」「それは、自分でなく、他者にも保障されるすべての人の権利」だとする考え方・見方が見えてくる。

これから障害者権利条約を批准する日本に求められる意識のあり様を考えさせられる一冊。

The book cover features a black and white illustration of three people standing together. The title '北欧 考える旅' is at the top, followed by '福祉・教育・障害者・人生'. Below the title is a small note: '全障研事務局長の北欧ノート'.

Contents listed on the cover:

- 北欧の日常に権利条約がある！
- 写真155点とエッセイで綴る
やさしく希望ある人ひとの暮らし
- UD「すべての人の社会」好評連載
に大幅加筆！

Published by 全障研出版部

『北欧 考える旅』 福祉・教育・障害者・人生

著者：蘭部英夫

定価：1,700円（税別）

発行：全国障害者問題研究会出版部